

## 中島大水道跡

自宅近くの理髪店さんから場所を聞いて、「中島大水道跡」を訪ねた。淡路商店街に行く途中、東海道新幹線の高架下にあった。顕彰碑には次のように書かれていた。

中島大水道は、北中島地区の農民が、度重なる水害と水はけの悪さに堪えかねて切り開き、東は西成郡増島村(現東淀川区淡路地区)から西は申新田(現此花区伝法地区)に至る 9.5 キロメートルに及び大用排水路であった。

延宝 2 年(1674)から同 4 年にかけて三義人と云い伝えられて

いる北大道村の沢田久左衛門、山口村の西尾六右衛門、新家村の一柳太郎兵衛などを先頭に、22 か村の庄屋や村民が幕府に公儀普請による水道開さくの願いを繰り返したが、莫大な工事費がかかるので、幕府は百姓自前の普請として水道開さくを許可した。

庄屋たちは 22 か村の村民を説得し、資金約 2 千両を募って延宝 6 年の春わずか 50 日で水路を貫通させるという偉業をなした。

以来、明治 32 年(1899)の淀川改修に至るまで、たゆまぬ維持、補修により 220 余年にわたって、その機能を果たし続け、地域の人々にはかりしれない恩恵をもたらした。

ここに、今日の東淀川区、淀川区及び西淀川区の発展の礎を築いた先覚者の義挙を末永く顕彰するため、この碑を建立する。

昭和 63 年 5 月吉日

顕彰碑とすこし異なる箇所もあるが、『東淀川区の 80 年のあゆみ』2006 年にも次のように記されている。—江戸時代になると、淀川北岸一帯は水田が盛んとなっていましたが、年ごとにくり返される洪水のため、農家は困窮していました。そこで、農民は結束して水田の排水路として中島大水道の開削を幕府に嘆願しました。しかし、幕府からの回答は、開削費用はすべて農民負担の「百姓普請」でした。そこで農民は、延宝 6 年(1678 年)3 月、幕府の許可をまたず、独自に開削工事に着手。新太郎松樋(淡路)から福村吐口樋(西淀川区西島)に至る約 9200m の中島大水道を、わずか 50 日間で完成しました。(この水路は、新幹線敷設工事で埋め立てられるまで残存しました。)

頭上を轟音で走る新幹線を見上げながら、しばし江戸時代に思いをはせた。

(2018 年 1 月 7 日)

